

教育センターだより

令和5年度 第3号

黒部市教育センター



教師だからこそできること

黒部市立村椿小学校 校長 大坂 由喜子

長い教員生活を今年度末で終えます。今振り返ればあっという間でした。自分が教師として大切にしていたのは、やはり授業です。授業中、子供の瞳の輝きを感じると教師としてのやりがいを感じました。小教研の推進校として研究授業を何度か行いました。授業を行う上で、「授業の真ん中に子供を据える」ことを大切にしました。どんな教材をもってあげれば子供の興味・関心を引くのか、導入はどんなしかけをつくれれば子供の意欲が高まるのか、普段の子供の行動や会話からヒントをさがりました。また、学習を通して、一人一人の子供にどんな力を付けたいのか、どんな姿が見られるようになるか、よいかを明確にしながら授業を考えました。授業を楽しんでいる子供の様子を見ると、自分自身も授業を楽しめるようになりました。人と人とのつながりには不思議な縁があります。図画工作科の推進校として2度研究授業をした時に来校された先生とは、20年以上経ちますが今でも年賀状のやりとりをしています。何歳になっても同僚と切磋琢磨する気持ちを忘れないこと、授業や学級経営について同僚と語り合うこと、学校内外の先輩から学び、よさを自分の中に取り入れ、試してみることを大切にしてください。自分の教育観が培われ、教員としての力量が形成されていくと思います。子供と一緒に授業を創り、楽しめるのは、教師だからこそできることです。

以前「コーヒーが冷めないうちに」の本を読みました。過去に戻ることができる噂の喫茶店を舞台に、4つの奇跡の物語が描かれています。私自身教師として戻りたい地点があります。大学卒業後すぐに中学校に臨任講師として赴任し、一年間担任をしました。ある一人の生徒が、年度途中で事情があつて学校を離れることになり、学校を去る当日、私はその生徒に声をかけることができませんでした。新米教師の自分に反抗し、対応にとても苦慮している生徒だったからです。その生徒が何度も後ろを振り向きながら、迎えの車に乗る姿が今でも忘れられません。本人の行為の背景にある心声を聞こうともしていなかった自分を悔やみました。学校には、様々な事情を抱える子供がいます。指導が入らない、担任との関係がうまくつukれない子供もいます。そういう子供は、きっとその子なりの悩みや不安を抱えています。相手が自分にどんな言動をとろうとも、気にかけている、心配しているという相手を思うメッセージをたくさん伝えたい、その時点に戻った私はそうしていると思います。子供の心を察し、気遣うことができるのは、子供の身近にいる教師だからこそできることです。

子供たちの成長を間近で見ることができる、その成長に関わることができるのは教師の醍醐味です。教師が生き生きと授業する姿を見て、「将来先生になりたい」とあこがれをもつ子供が増えることを願います。大変なことが多い世の中ですが、悩んだときは「なぜ、教師になったのか」と原点に立ち返り、教師のすばらしさを再確認してほしいと願います。



1 研究課題 (実践研究テーマ④)

基礎的読解力・数学的思考力・情報活用能力等の育成
～道具としてのICTの活用を図りながら～



2 取組の概要

昨年度は、清明中学校校区が中心となって研修を進め、一人一台端末等のICTを活用することで、効果的な学習方法の解明に向け成果が得られた。

今年度は明峰中学校校区の小中学校を研究推進校とし、市の研究課題「基礎的読解力・数学的思考力・情報活用能力等の育成」を基に各学校の実態に即して研修テーマを絞った。研修主題解明の手立ての一つとして便利な道具としてICTを利活用しながら基礎的読解力(読み解く力)・数学的思考力・情報活用能力等の育成といった取組を通して、調査研究を進めた。

(1) 成果

<数学的思考力の育成について>

- ・ICTを利用することで、既習事項を振り返る、ヒントカードを出す、板書の蓄積を行うといったことがしやすくなるとともに、数学的な見方・考え方を意識させてICT活用を促すことができた。また、子供一人一人の実態に合わせて課題解決方法を選択させることができた。
- ・考えを交流する場面では、ICTの共有ノートや思考ツール等を利用したことで、児童は友達の考えと比較して試行錯誤しながら考えることができ、よりよい理解につなげることができた。



<主体的で対話的な活動について>

- ・教科の授業の小集団学習だけでなく、学級活動においても週1回の班会議の取組を継続して行い、話し合いの機会を増やしたことで、発表が苦手な生徒も発言の機会が増え、意見交流がしやすい雰囲気づくり、対人関係スキルの向上につながった。また、教科の授業で活発な話し合いを行ったり、協働的に学習を進めたりするための素地づくりにも効果的であった。2学期末の授業アンケートによると、「ペア学習・班学習等により、自分の考えを深めることができています」という設問に肯定的な回答をした生徒は93%に上った。

<情報活用能力の育成について>

- ・中学校の社会科の学習では、黒部市の行政についての調べ学習、課題追究、スクールミーティングにおける市長との意見交流を行った。まず、行政情報資料の読み取りを基に課題追究を行い、市への質問や提言を考えた。市長との直接の交流やその後のまとめ活動は、行政に興味をもたせ、自分事として積極的に考えて発言できた。考察を深める中でも自分から必要な情報を取捨選択して新たな疑問を発見したりし、学んだ

ことを次の課題設定につなげている生徒が多く見られた。

- ・全員の考えを瞬時に共有することのできるICTのよさを生かし、対話の場面で活用したことで、友達の考えを参考に自分の考えを見直したり、友達と対話したりして、自然な形で自己調整をすることができた。課題解決のための自らの学び方の習得にもつながった。

< ICTの効果的な活用について >

- ・問題提示では、ICTを活用して視覚や聴覚に訴えることで、児童の問題意識を高めたり、場面の把握を確実にしたりすることができた。
- ・ICTを活用し、継続して学習の振り返りを行うことで、活動記録データが蓄積され、児童は自分の学習方法を振り返ったり、よりよい学び方について考えたりする機会となった。
- ・中学校の技術分野において、資料を読み取ったり調べ学習を通して最適な発電方法について考えたりして、班ごとにICTを用いたプレゼンテーションを行った。プレゼンテーション作成では、資料の取り込みも簡単にでき、作成時間も短く効率的にまとめることができた。よりよいエネルギー生産についての理解が深まり、充実した議論が行われていた。他教科においても、資料提示や意見の共有、まとめ活動等、ICTを活用する場面が増え、主体的な表現活動のツールとして定着してきている。

(2) 課題

- ・教員・生徒ともにタブレット端末の使用に慣れ、学習に生かす場面が増えてきた。しかし、使用する教科や教員が限られており、より効果的な指導や評価への生かし方について研究を進めていく必要がある。
- ・子供がどのように自己調整したのか把握するためには、ICTの活用よりもノート活用の方が把握しやすい場合がある。子供自身も学びを振り返り、教員も評価を指導改善に生かすことができる。双方のよさを生かす活用方法を検討していく必要がある。そのためには、ICT活用が紙の「代用」なのか、紙より「有用」なのか、「有効」なのかの情報収集に努めて生かしていく必要がある。

3 今後に向けて

- ・ICTを道具として「有効」に活用するためには、まずは子供と教員がICTに十分に慣れることが必要である。毎日「文房具」のように使い続けることにより、ICT活用のよさが分かり無理なく生活の一部として活用できるようになる。活用に困難さを感じやすい学年は、ICT支援員との連携が有効である。今後は、ICTを活用した「基礎的な学力の定着」と「学びの深化・発展」、「個別最適な学び」を図ることを目指し、学習意欲を喚起する課題設定の工夫や、学習活動の工夫について今後も研究を進めていく。

【内地留学報告】

いじめ問題における加害児童への指導・支援の在り方

宇奈月小学校 教諭 島瀬 容子

5月～7月の3か月間、富山大学教育学部 石津憲一郎 教授のご指導の下、子供たちとの関わり方について学ばせていただきました。この内地留学の講義や演習を通して、感情の働きやそれにアプローチしながら対話を重ねて児童生徒理解につなげていくことを知りました。

いじめ問題対応においても同じであると感じます。国立教育政策研究所「いじめ追跡調査 2016-2018」(2021)によれば、小学4年生～中学3年生の6年間で、何らかのいじめ加害経験があった生徒は約85.7%いることが示されています。また別の研究では、小学生のうち、被害経験を伴わない加害児童は14.5%であったのに対し、被害・加害とも経験している者は85.4%であったという報告もあります。このことから、過去のいじめ被害経験が子供たちに攻撃性をもたせ、加害行動に向かわせている可能性が推察できます。加害者は自尊感情の中でも対人関係上での自己肯定感が低く、理解者の存在や人との関係性の中で満たされない思いを抱えるものが多いそうです。つまり、いじめ加害者は、人と関わる中で生じた不安や怒り、寂しさ、悲しみ等、言葉にできない感情や体験が自分の中で消化しきれなくなっており、自分を守る手段として、「いじめ」という攻撃行動(SOS)をとっていることが考えられるのです。いじめ加害児童への指導は、まずはその子供の言い分を否定せずに聴くことから始めていきます。

どのような理由があっても、いじめを容認することはできません。「否定しない」とは、肯定もしないことを意味しています。指導内容を心から受け入れられるようになるまで、根気強く対話を重ねることが必要となります。感情は受容し、行為は後に指導するのです。感情の裏側には、その子供の援助ニーズが隠れているそうです。教師は、「加害行動によってどんな感覚を求めているのか」「何を満たしたいのか」を知ろうとしながら、加害者の言葉を聴いていきます。ネガティブ感情を困り感で終わらせない支援をすることによって、いじめの根本解決につながり、加害児童がよりよく生きようとする支えとなるからです。

内地留学を終えて現場に戻ると、早速いじめ問題対応に直面しました。理論上は理解していても、実際の指導となると、ケースによって異なり、難しいことがいくつもありました。行為は停止していても、「加害児童の根本解決につながったのか」と聞かれると、何とも言えません。そうであるからこそ、今後も継続的に児童に働きかけながらできる支援を考えていきたいと思えます。



【中央研修報告】

「令和5年度 学校組織マネジメント研修」を受講して



明峰中学校 教諭 島 香織

教務主任・研究主任という立場で本研修を受講した。チームとしての学校づくり、学校組織マネジメントについて学び、学校組織力の向上のために実践していくべきことについて、今までよりも大きな視点で理解することができた。

〈研修のまとめと今後の課題〉

カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校を目指していかなければならない。

その実現のためには、自主・向上性と同僚・協働性、これらが共に高い、よりよい教員組織を形成することが必要である。そのためには、①学校（教員組織）が「取組を通じて成し遂げたいこと」の理解と共有化を促すこと、②個々の教員が「自分の成長と教員組織の取組を通じた成長が一致している」との実感をもつことが必要である。

本校では学力調査の結果や学校評価等で明らかになった課題をもとに、重点目標や研修課題を設定している。講義で「改善はイベントではなく、評価からはじまる継続的なサイクルとして機能すべき」とあったように、全職員がそのサイクルを意識し、目標をもって指導に当たることが大切である。さらに、その取組を通して個人も組織も成長していくことを目指し、校内研修の機会等を生かしてチームとしての学校づくりに取り組んでいきたい。



「カリキュラム・マネジメント研修」を受講して

若栗小学校 教諭 川口 なつみ

「独立行政法人教職員支援機構主催の令和5年度カリキュラム・マネジメント研修」を受講する機会をいただいた。カリキュラム・マネジメントは、現行のカリキュラムを土台として、学校の課題は何かを捉え、研修における学びの視点を基に、意味付け・価値付けをすることが重要であると教えていただいた。取り組むことを躊躇していることの方がよくないようだ。特に研修の中で大切にしたい学びの視点は、マネジメントサイクルの模索についてであった。カリキュラム・マネジメントとは、子供の目線を大切にした「学びのマネジメント」であり、子供が何を学んだか・学ばなかったかを明らかにする必要があるようだ。そのためにもPDCAサイクルを用いた行事と行事をつなぐ評価では、行事の振り返りは来年度に生かす評価ではなく、次の行事に生かすことがポイントであり、効果的な支援は、直近の行事に即生かし（形成的評価：短期スパンのマネジメントサイクル）、年度末には重点目標を基に振り返り（総括的評価：長期スパンのマネジメントサイクル）をしっかりと行うことが重要であると学んだ。教育活動としっかり連動させるためにも「見直し、取り組む」の過程を短時間でも回数多く繰り返し、全教職員で自校ならではのカリキュラムへと練り上げていきたいと感じた。

3日間の研修を通して、自分自身のカリキュラム・マネジメントへの意識の変化を感じた。実践校の取組の中で「何を大切にしたいのか考えよう、自分たちで学校を創ろう、当たり前を見直そう」など当事者意識をもった教職員の発言が忘れられない。しかしその実践校だからこそカリキュラム・マネジメントが成立するのではなく、まずは各学校が取り組もうとすることで、「皆でよく考え、見直す組織」に成長していく一歩となるのだろうと考える。この研修での学びを生かし、教職員皆で力を高め、カリキュラム・マネジメントによる未来を創造する喜びを味わいたいと感じ、取組に向けた意欲が高まっている。

「生徒指導基幹研修」を受講して

黒部市教育センター 指導主事・研究主事 大上戸 剛司

今回、独立行政法人教職員支援機構主催の令和5年度生徒指導基幹研修を受講する機会をいただきました。(令和5年8月の3日間、オンライン受講、全国で200名程度の教職員が参加)

本研修では、学校や地域において指導的な役割を果たすべく、生徒指導に関する諸課題について検討・分析するとともに、学校内外の資源をマネジメントした組織的な生徒指導体制を構築するための手法等を学ぶことができました。

生徒指導に関する課題の中で、特にいじめ対策については、重点的に講義がありました。「仲間はずれ、無視、陰口」をされたこと、したことの経験がある児童生徒はともに9割も存在し、いじめはどの学校でもどの子供にも起こり得る問題です。教師は法に則り、些細なことでもいじめの積極的認知をしていく必要があると理解しました。その際、教師が一人で抱え込まないように「チーム学校」で組織的に対応することも、法律で決まっていることを再認識しました。そして、重大事案等に速急に対応するためには、常に教師のアンテナを高くしていることや児童生徒とのコミュニケーションを図ることを日々心掛けたいと感じました。

また、刻々と変わる児童生徒の実態が、いじめ防止対策推進法の基本方針の改訂や、一昨年、12年ぶりに「生徒指導提要」の改訂がされました。他にも、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」等新しい不登校対策も熟知しておかなければこれからの生徒指導対応は難しく感じました。私たち教師自身の思考や知識のアップデートをしていく重要性を実感した研修でした。

今回の研修を終えて、「学校危機と向き合う生徒指導」について多くのことを学ぶことができました。日頃のリスクマネジメントの重要性と突然起きたクライシスマネジメントの冷静な対応ができるように危機管理能力を高めていきたいと思えます。そして何より、黒部市内の児童・生徒が、社会の一員として貢献できるような人になってくれるように、学んだことを生かしていきたいです。

【令和6年度の主な研修予定】

☆講演会予定(魚津地区教育センター協議会)

	授業力向上に関する講演会	生徒指導に関する講演会
期日	7月31日(水)	8月7日(水)
会場	入善町うるおい館	入善町うるおい館
講師	東京学芸大学教育学部 准教授 大村 龍太郎 先生	富山大学保健管理センター 客員准教授 西村 優紀美 先生

☆相互参加型研修会

	外国語教育研修会	カウンセリング講座	生徒指導研修会
期日	8月8日(木)	7月26日(金)	6月7日(金)
会場	宇奈月小学校多目的ホール	うるおい館	魚津市教育センター
講師	富山大学大学院教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生	南魚沼市教育委員会 SSW 長田美智留先生	精神保健福祉士・SSW 上波 薫 先生

「おたすけ箱」をご活用ください！

☑学校間共有 > ☑黒部市教育センター > ☑30 おたすけ箱

多忙な先生方が、^{ゼロ}から教材を手作りしなくてもよいように、

「使えるものはみんなで共有しよう！」ということで、作成してあるフォルダです。中のデータをコピーして、自由にアレンジしてお使いください。

<データの一部を紹介します>

- ☑ ICT活用例
- ☑ インタビューゲーム
- ☑ ケース会議資料(総教セ2019)
- ☑ たしざん・ひきざん・かけざん・わりざん
- ☑ 学級担任用支援ツール(総教セ2017)
- ☑ 学習カード
- ☑ 指示用カード・シンボル
- 📄 お役立ちサイト
- 📄 すきなどっちゲーム

- ☑ 2年生～5年生を網羅した筆算プリント
- ☑ ソーシャルストーリー
- ☑ 漢字ppt
- ☑ 算数
- ☑ 自立

- ☑ あべこべカルタ
- ☑ タングラム
- ☑ ちがひ
- ☑ どんな場面？
- ☑ ばらばら漢字パズル
- ☑ ピンゴ
- ☑ 漢字意味カルタ
- ☑ 近接の関係
- ☑ 今の気持ちは？

- ☑ かけ算
- ☑ かけ算②
- ☑ 九九表ときまりetc
- 📄 円のきき方
- 📄 三角形をかこう
- 📄 三角形をかこう_2
- 📄 手順カード_平行四辺形_コンパス
- 📄 手順カード_平行四辺形_三角定規
- 📄 垂直のかきかた
- 📄 分度器の 使い方_180以下書く
- 📄 分度器の 使い方_180以上
- 📄 平行のかきかた

新着情報

- ・多層指導モデルMIM 読みのアセスメント指導パッケージ
- ・改訂版 特別支援の算数教材・国語教材
- ・中高生のための SST ワーク
- ・その他 生徒指導関連書籍等

☆ 4月より貸し出し開始予定です。
ご利用ください。

